

<今朝の聖書から>

息子に聖書絵本を読んでやることのあるのですが、ときどきストーリーは簡単なのに、非常に語りにくい話があります。ヨブは信仰深かったゆえに、サタンに試されるという災難にあいます。ヨナは、神様の言うことを聞かなかった結果、嵐の海に投げ込まれます。これらのストーリーを聞いて、呆然とする3歳の子に皆さんならどのような言葉を添えて、健全なキリスト者に成長するように願いますか。この添えられる言葉こそが“説教”なのかな、と、しばしばその大切さを痛感させられます。

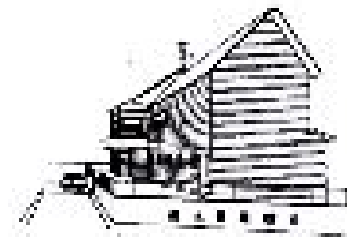
さて、今日の聖書箇所も、言葉を易しくすれば子供にも意味がわかる内容です。けれども、最も、大人たちの中にあって自分は100%受け入れられていると信じている年頃の子に、「イエス様のことを皆がよく知っていた。“だから”受け入れられなかった」というのは、意味は分かるけれども理解できないでしょう。しかしこの箇所は、先に例に挙げたこととは意味が異なります。もしも3歳児だったら、実は自分の知っているこの人こそが“神様”だったとわかると、大喜びするはずなのです。けれども聖書にでてくる大人たちは、そうではなかった。もちろん子供であっても、主を信じて救われる必要はありますが、この話は、まさに、人間の、しかも知恵や経験の増した大人において顕著に現れた罪なのです。

信仰に至っていない人にとっても聖書の教えはすばらしく、異議を唱える人はすくなくないでしょう。けれども、「では、あなたもクリスチャンになりますか?」と尋ねるとき、躊躇する人が多いのも事実です。何故でしょう? 聖書について聞いたことをそれ以上に、深く知ろうとする思いが無いからです。何故でしょう? それは、「神が人となり人間の罪を負われた。」という、世的な常識を逸脱する話につながるからです。けれども、このことは未信者の方だけにいえることではありません。もしクリスチャンでありながら、イエス様を自分の得た理解の内に留めてしまい、日々新たにみ言葉を頂く、神の救いの業に応答する生活を目指さないならば、それもまた、「信仰と常識とは区別した生活」を望む罪なのです。

常識も道徳も科学も大切です。その探求の歴史はキリスト教が築いてきたといっても良いほどです。大切なのは、その常識が一体何を根拠にしているか、ということです。自分の経験で築いた、自分の尺度による常識ではなく、キリストにある価値観を得ようと望むとき、それは遥かに世間に対して常識的な道徳精神に満ちた、科学的な世界に通じます。しかもその世界は、イエス様の救い主であるという良き知らせ(福音)とは全く反しないのです。(文責:村上真理子)

週報

2010年 6月 20日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042